令和４年度

学校評価・学校関係者評価

報告書

甲府市立笛南中学校

目次

本校の学校評価について・・・・・・・・1

学校運営と評価改善の年間計画・・・・2

笛南中学校経営方針・・・・・・・・・・3

学校評価　自己評価のまとめ・・・・・5

今後の学校運営の方向性　別紙・・・・8

学校関係者評価　結果・・・・・・・・・9

参考資料

①自己評価の根拠とした取組等の記述まとめ・・・・・・１１

②改善すべき内容や意見・・・・・・・・・・・・・・・１３

③自己評価の数値集計表年間比較・・・・・・・・・・・・１４

④生徒保護者アンケートの分析・・・・・・・・・・・・・１５

⑤【資料】生徒アンケート・・・・・・・・・・・・・・・１９

⑥【資料】保護者アンケート・・・・・・・・・・・・・・２５

本校の学校評価について

本校の学校評価は，学校教育法および学校教育法施行規則に基づき，自己評価，学校関係者評価を実施し，学校運営の改善を進めるとともに，甲府市教育委員会に報告し，ホームページで公表する。

〇学校教育法

第 42 条　小学校は、文部科学大臣の定めるところにより当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。

〇学校教育法施行規則

第 66 条　小学校は、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を公表するものとする。

２ 前項の評価を行うに当たっては、小学校は、その実情に応じ、適切な項目を設定して行うものとする。

第 67 条　小学校は、前条第一項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の児童の保護者その他の当該小学校の関係者（当該小学校の職員を除く。）による評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。

第 68 条　小学校は、第六十六条第一項の規定による評価の結果及び前条の規定により評価を行った場合はその結果を、当該小学校の設置者に報告するものとする。

参考資料

「学校評価ガイドライン[平成 22 年改訂]」文部科学省

「やまなしの学校評価推進のための手引書」　平成２２年３月　山梨県教育委員会義務教育課

学校運営と評価改善の年間計画

	県・市教育委員会	（学校評議員）→ 学校運営協議会	学校評価	人事評価	根拠資料等	保護者関係行事
4月	市　学校教育指導重点説明	（入学式）	学校経営方針 学校評価の説明 自己評価項目と指標の作成		前年度学校評価資料 企画委員会での検討内容	PTA新旧執行部会 第1回PTA役員会 PTA定期総会 学年PTA総会
5月	学校要覧・教育要覧の提出	（学校評議員会 → R5年度より、学校運営協議会）	教職員の目標設定と取組の開始	自己観察書の作成 一次面接	拡大企画委員会による評価項目と指標の検討	
6月			学校関係者評価の項目の設定と資料の作成	取組成果の観察・記録・指導		6月中旬授業参観・懇談会 6月下旬第2回PTA役員会
7月		※学校運営協議会設置推進委員会 学校経営に関する意見集約(R5以降は5月に開催)			学力把握調査の結果 期末テストの結果	7月上旬学校保健委員会
8月					全国学力・学習状況調査結果	
9月		（学園祭への参加）	教職員の改善の取組	研究授業等 成果の確認等		学園祭
10月				能力評価	中間テスト（9教科）の結果	10月上旬第3回PTA役員会
11月						合唱交換会
12月			生徒・保護者アンケート 自己評価 年間の学校評価のまとめと改善案		期末テストの結果	
1月			学校関係者評価の資料作成	業績評価		授業参観・学年懇談会 PTA役員選考会（2年生） PTA役員選考会（1年生）
2月		（学校評議員会） → ※学校運営協議会設置推進委員会	学校関係者評価 今年度のまとめ ホームページで公表	評価結果の面接		第4回PTA役員会 新入学生徒保護者説明会
3月	中旬　学校評価報告書提出 下旬　次年度教育課程の提出 下旬　次年度年間指導計画の提出	（卒業式）	次年度への学校経営方針の作成・引継書の作成	評価結果の面接		

令和４年度　学 校 経 営 方 針

甲府市立笛南中学校

１　学校教育目標

知性あふれ　心豊かな　たくましい生徒の育成

- 一　知性あふれ感性豊かな生徒
- 一　自らを律し思いやりのある生徒
- 一　心身ともに健康でたくましい生徒
- 一　気づきよく考え進んで行動する生徒

学校像
- ○　楽しい学校
- ○　活力のある学校
- ○　美しい学校

生徒像
- ○　自ら学ぶ生徒
- ○　思いやりのある生徒
- ○　健康で行動力のある生徒

教師像
- ○　熱意と使命感のある教師
- ○　豊かな人間性と思いやりのある教師
- ○　実践的な指導力のある教師

２　学校経営の基本方針

（１）適切な教育課程を編成し，ＰＤＣＡサイクルによる評価と改善に努める。
（２）分かる授業を目指し，生徒一人一人の確かな学力の向上に努める。
（３）明るく楽しい学校を目指し，いじめや不登校等の早期発見・早期対応に努める。
（４）学校安全や生徒指導などの危機管理体制の充実に努める。
（５）家庭や地域，小学校との連携を図り，信頼される学校づくりに努める。
（６）教職員相互の「信頼と和」を築き，互いに協力し支え合う職場づくりに努める。

３　本年度の県・市の指導重点

（１）「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりの推進による確かな学力の向上

「やまなしスタンダード」の深化　＋　**「甲府スタイル」の授業づくり**

①　基礎・基本の定着を図り，学ぶことの楽しさを実感できる授業づくりに努める。
②　言語活動の充実を図り，思考力・判断力・表現力を身に付ける授業づくりに努める。
③　「見通し」と「振り返り」のある分かる授業の実践に努める。
④　個－集団－個の活用を図り，主体的・対話的な学習過程の構築に努める。
⑤　自主学習ノート等の取組を通して，家庭学習の充実と学習習慣の確立に努める。
⑥　**考える力や記述力を高める設問と指導により学力向上のための授業改善に努める。**
⑦　教科の授業において ICT 機器を積極的に活用し，情報活用の実践力の育成に努める。

（２）自己実現を図る力を育む生徒指導と心の教育の充実～思いやりのある生徒

いじめを許さない集団づくり　＋　**「思い遣る心」をもった道徳的実践力の育成**

①　「道徳科」の授業実践と評価により，「心の教育」の充実に努める。
②　あいさつ運動，朝読書，合唱活動，美化活動等の充実を図り，潤いある学校づくりを進める。

③　**社会性を育成する生徒指導を実践し，認め合い学び合う学級づくりに努める。**
④　生徒が理解し向上しようとする意欲につながる指導を心がけ，保護者と共に認め励ます指導に努める。
⑤　いじめ・不登校については，未然防止に重点を置き，早期発見・早期対応に努める。
⑥　携帯電話，スマートフォン等のマナーやモラル，危険性について指導の充実を図る。
⑦　生徒会活動，部活動の充実をはかり，好ましい人間関係の育成と体力・技能の向上に努める。
⑧　きめ細かな進路指導に努めるとともに，将来を見つめたキャリア教育を推進する。

（３）自他を守り，命を大切にする健康・安全教育の推進～健康で行動力のある生徒

健康な生活に必要な資質等の育成・学校安全管理体制の充実　＋　**日々運動に親しむ習慣の確立**

①　授業や体育的行事等を通して進んで運動を実践する意欲を育て，体力向上を図る。
②　がん教育をはじめとした健康課題への対応に努め，心身の健康の保持増進に取り組む。
③　日常的に起きる事件・事故に際し，自ら安全な行動をとる能力を育む生活安全教育を推進する。
④　自転車利用に関する指導を充実させ，危険予測能力を向上させる交通安全教育を推進する。
⑤　非常変災時に地域安全の率先者となる資質・能力を向上させる災害安全教育を推進する。
⑥　危機管理マニュアルを見直し，実践的な防災・防犯訓練を計画的に実施する。

（４）自立を育む特別支援教育の体制づくり

「個別の教育支援計画」等の作成と活用　＋　**的確な実態把握に基づく個に応じた指導の充実**

①　生徒の実態に応じた適切な教育課程を編成し，一人一人を伸ばす指導と評価に努める。
②　**「個別の教育支援計画」**に基づき，生き生きと学習できる環境・授業づくりに努める。
③　**通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする生徒への合理的な配慮**に努める。

（５）家庭・地域社会・学区内小学校との連携の一層の強化

積極的な情報公開　＋　**保護者・地域住民の参加機会の充実**

①　「ふれあい活動」のねらいをもとに，日常的に交流を深めるＰＴＡ活動を展開する。
②　学校・学年・学級通信やホームページ等を活用し，積極的な情報提供に心がける。
③　信頼される学校を目指し，家庭や地域に開かれた学校づくりを推進する。
ア「地域を知る」
：『ふるさと山梨』等を活用して，郷土に誇りを持つ生徒の育成に努める。
イ「地域とともに学ぶ」
：地域や保護者に授業公開するとともに，諸活動への地域人材の積極的な活用に努める。
ウ「地域に出て地域と関わる」
：教育活動の場を地域に広げるとともに，地域行事等への生徒の積極的な参加を促す。
④　合同研究会や授業交流等小学校との連携を強化し，円滑な接続や共通課題の解決を図る。

４　笛南中学校の指導重点

（１）特別支援教育の知識を深め，通常学級の生徒を含め，学級経営の充実と適切な支援・配慮を行う。
①支援計画・指導計画のもとに情緒自閉症学級，知的学級に在籍する生徒の支援を行う。
②ＡＤＨＤの発達障害について知識を深め，その傾向のある生徒の支援を行う。

（２）学習指導要領の趣旨を理解し，その実現に努める。
①校内研究により計画的な教育課程の編成と完全実施に努める。
②各教科の観点の内容と，評価の具体例をもとに授業実践を行う。
③②を人事評価自己観察書の「教科指導」に記し実践する。

令和４年度学校評価のまとめ

【結論】

本年度も、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、年度当初より主な行事については感染症対策を講じ、内容の変更や運営方法を工夫しつつ、子どもたちの成長のために何ができるかを第一に考えながら学校運営を行ってきた１年間であった。また、「新学習指導要領」完全実施の２年目であるとともに、ＧＩＧＡスクールに関わり、タブレット端末の授業での活用実践だけでなく、端末の持ち帰り(家庭学習での活用)、欠席者(登校できない生徒)に対するオンライン授業の実践にも積極的に取り組んできた。

コロナウイルス感染症に関しては、様々な対策をとってきたのにもかかわらず、感染者の拡大が一昨年、昨年を上回る状況になってしまった。しかし、めまぐるしく変化していくコロナ禍ではあったものの、「何ができるか」という前向きな発想を、今年度は実施･実現につなげていくことができた。先生方からは「次は」「次は」とアイディアを出し合い、目の前の子どもたちをどう育てるかという視点で学校運営にあたってきた。その結果、課題はあるものの、学校長より示された６項目の学校経営方針の指導重点について、全職員が協働して取り組んできたことが分析できる。

人事評価の目標設定、面談等による、指導重点・具体的施策の周知、また、個々の教員の責任や役割分担を明確化し組織運営を重視したこと、行事等における優先すべき教育内容を明確にして取り組んできたことによるところが大きい。これらのことは、目標を明確にすることで、教職員が焦点化された教育活動を進めることが可能となったからであろう。

総括的な評価項目（回答Ａ）として、「校長が示した学校経営方針に基づいて学校運営がなされているか」については、全職員が「取り組んでいる（「ある程度取り組んでいる）も含む)」と評価した。同項目の「あなたは取り組んでいるか」（回答Ｂ）の回答値についてもほとんどの職員が「取り組んでいる（「ある程度取り組んでいる）も含む)」と評価した。回答平均値については昨年度と同等あるいは少し下がっている状況になっているが、コロナ禍の中取り組みきれなかったことが多かった状況や、もっとできたのではないかと厳しく評価した教員の姿があると思われる。ただ、個々の教員の指導の充実と、学校組織の活性化については十分図られていると判断できる。

以下に、「職員による自己評価アンケート」及び参考資料（「生徒アンケート」「保護者アンケート」）より明確となった、指導重点ごとの成果と改善すべき課題について示す。

指導重点（１）「学ぶ意欲を高める授業づくりによる確かな学力の向上」

〇校内研究と連携し、授業改善に関わって、「課題設定」「発問」「振り返り」について、新学習指導要領に基づいた「評価」と関連付けた取り組みが行われた。「振り返り」については、今年度生徒の振り返りシートを掲示する取り組みを行った。これにより、生徒同士で刺激しあうことになり、学習意欲を高めるとともに、学習への取り組みを強化することにつながった。きめ細かな学習指導については、限られた時間ではあるが、「生徒にとっての課題の克服」を目指し、実践することができた。自主学習ノートについては、個々の差がやや広がってしまっており、習慣化・質的な充実が今後の大きな課題となっている。

・「目標設定と見通し・ふりかえりの場面を設定した授業改善」について、ＯＰＰ（ワンペーパーポートフォリオ）や小テストの実施、生徒の振り返りシートの掲示等、多くの職員が改善に向け生徒の意欲を高める働きかけを行ったので、自己評価からも教師の意欲的な様子を見取ることができる。生徒のアンケート結果からは「授業の終わりに自分の目標達成を確認している」と回答した生徒は、昨年度の４５％に対し今年度は５３％とわずかではあるが向上がみられた。しかし、依然として５割程度である。「授業の始めにこの時間に達成する目標がわかっている」と回答した生徒が７７％(R3)から７０％（R4）に低下していることも、生徒への意識付けの重要性を再確認する必要がある。「甲府スタイル」にあるように、目標設定を生徒のものにするために、生徒に課題意識を持たせる教師の働きかけが更に求められている。それが「振り返り」の意識づけにつながり、学習に対して生徒が常に自分自身の姿を見つめ、ひいては学力向上に結びついていくと思われる。校内研究での実践を関連付けて、具体的なアプローチに取り組んでい

く必要がある。
・学力向上策としての学習指導員加配の活用は、特別支援学級での効果だけでなく、通常学級での学習場面においても効果を上げている。特にＴＴでの学習環境が整うことで、個の特性に合った個別学習場面を、授業において実現できている。
・「自主学習ノート」については、小中の連携の中で継続して指導してきた。しかし、学年差、学級内個人差の広がりがみられている状況が課題である。習慣化できている生徒は良いのだが、生じた「個人差」を解消するための学年･学級経営を中心とした働きかけをどのように進めていくかが課題である。
・生徒アンケート質問４「わたしは、手を上げたり発言したりしている。」に対し、6 割以上の生徒が「あまり当てはまらない」「全くあてはまらない」と回答している。授業に臨む姿勢が受け身であり、生徒の「積極性」「表現力」が大きな課題となっている。

指導重点（２）自己指導能力を育む生徒指導と心の教育の充実

〇全ての職員が学校の教育活動全体を通して、生徒理解と道徳的実践力を身につけさせる指導を行っている。しかし、「学校に行くのが楽しいと思う」という問いに対し、2 割強の生徒が「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」と回答しており、生徒の学校生活に対して満足感を得られていない生徒が、昨年同様に２割程度いる状況が見てとれる。生徒理解・個に応じた指導の充実という教育の基本に立ち返り、見直していく必要がある。
・全学級で道徳の授業が実践され、キャリア教育の充実や情報モラルの向上等、日常的に「思い遣る心」の育成に向けた指導が教師によって実践されていることが覗える。しかし、生徒アンケートを見ると、上述したように「学校へ行くことが楽しい」と感じていない生徒が 2 割強、友人や教員に対して信頼感を十分に持てない生徒が 1 割弱から２割弱いるという現実がある。昨年度の状況を見ても、ほぼ同程度になっている。これは、教師側のねらいと生徒側の意識や学習経験との間に大きなズレが出てしまっていると言える。「生徒理解」の上に立ち、指導方針や内容を検討し、学級経営の工夫と改善を計画的・継続的、そして重点的に行っていく必要がある。

指導重点（３）「自他を守り、命を大切にする健康・安全教育の推進」

〇本年度も、年間を通した感染症拡大防止に向けた取組が進められた。ただ、コロナ禍が長く続いているため、生徒一人ひとりの、「命や健康を守るための意識」がやや薄れていると感じられる場面も見受けられた。長期間の対策･取り組みに対する意識付けを考えていくことが必要でなる。また、洪水の危険性が高まった際の避難場所の確認（年度始めに学年ごと実際にその場所まで移動して確認）や予告なし避難訓練の実施等により、緊急時の避難方法に関する防災意識の向上を図ることができた。今後も継続的・計画的に具体的な方策を持って取り組む必要があると思われる。交通安全指導・安全教育に関わっては、今後も継続的な指導が必要である。
・感染症対策については、全職員が高い意識をもって指導に当たることができた。多くの生徒が安心･安全に対する意識を強め、危機感を持ちながら感染症対策に関するスキルを向上させることができた。
・本校は洪水・地震等自然災害発生時には被害想定値の大きい地域であり、さらに交通事故の危険性も高く、防災意識の育成及び安全教育の充実が必要不可欠である。本年度は、「洪水時の避難場所の確認」「地震を想定した引き渡し訓練」「火災を想定した予告なしの避難訓練」を実施した。洪水対策としては、上述のように避難場所を実際に確認する活動を行った。生徒は訓練の意義をしっかり理解し、課題意識を持って取り組んだ。自分の判断で避難行動、自助・共助行動がとれるよう、訓練内容の工夫を検討していく必要がある。

指導重点（４）「自立を育む特別支援教育の体制づくり」

〇本年度も、特別な支援が必要な生徒に対して専門家や関係機関を交えた情報交換を行い、各機関の役割分担の明確化を図りつつ特別支援教育の充実をめざした。授業においても、授業者、特別支援教育支援員、学習指導員の協働体制のもと、１対 1 の個に応じたきめ細かな指導を行ってきた。また、週に１時間は特別支援学級を担当する教職員が情報交換会を持ち、どのような関わり方、働きかけ、対応をとっていくのか検討し、指導を明確化していった。さらに、通常学級において学習課題を抱える生徒に対しては、TT での授業の実施、学生ボランティアの活用など、

きめ細かな対応を可能な限りとってきた。とは言え、個別の支援計画・指導計画に基づく指導と評価については、機会のあるごとに共有していける方策を検討していくなど、教師間の情報交換を一層密にしつつ、さらに改善を図っていきたい。

・小規模校である利点を生かし、臨機応変に情報交換の場や校内委員会等を実施し課題の共有や取り組みの改善を図ったことにより、組織的な指導体制を構築することができた。

・学校評価項目の「個別の支援計画、指導計画を作成し、計画的に社会的な自立にむけた支援の場面を設定しているか」についての回答では、「学校として取り組んでいるか」の問いに対して、９割が「取り組んでいる（ある程度を含む）」と回答している(昨年度と比較すると減少)。同項目の「あなたは取り組んでいるか」の問いに対して、「取り組んでいる」「ある程度取り組んでいる」と「やや不足している」の回答がほぼ同じ割合になっている。生徒の実態に即した指導内容と適切な評価のあり方等について、十分周知・徹底ができていないと考えられる。「生徒１人１人の特性の共通理解」「個別の支援計画や指導計画の共有」の上での教育実践や評価のあり方などについて検討していくことが求められる。

指導重点（５）「家庭・考えられる地域社会・学区内小学校との連携の一層の強化」

〇本年度も、感染症対策のためほとんどのＰＴＡ活動や地域との連携行事（職場体験、小中合同研修会、中道ふれあい祭、地域防災訓練等）を中止された。また、実施できたものについても内容の変更や規模を縮小しての実施となってしまった。こうした状況下、保護者の学校行事へ参加していただく機会の確保のため、学園祭においては２日開催で実施し、参加人数を制限する中で生徒の姿や学校の様子を見ていただくことができた。また、学校からの情報発信という視点で、ホームページの更新をこまめに行い、生徒の姿や学校の様子を公開することができた。学校だより及び学年･学級通信の発行とあわせ、情報提供が確実に図られたことも成果としてあげられる。学校だよりについては、今年度は学区地域の回覧を行った。情報発信を通して、家庭・地域との連携を更に推進したい。

・保護者アンケート（参考資料）からは、８割以上の保護者が「学校行事へ積極的に参加している(8 割強)」「各種便りで生徒の様子を適切に伝えている(9 割弱)」と回答している。昨年度とほぼ同じか、若干ポイントを上げている。コロナ禍であるからこそ、学校からの情報発信、保護者が来校できる機会での積極的な参加という形で、家庭との連携は十分に図られていると考えられる。

・中道地区の小中学校では、従来から３校で協議し、地域の特色を生かした９年間の系統的な教育活動を推進してきた。特に家庭学習とあいさつの習慣化に継続的に取り組んできている。夏季休業中には「小中合同研修会」を開くことになっていたが、今年度も参集して実施することができなかった。しかし、令和４・５年度の２か年、ＪＲＣ研究指定を３校が合同で受けていることで、課題研究会において情報交換を密に行い、各校教職員に対しては校内研等で環流している。

・家庭学習の平均時間が１時間以下（「やっていない」を含む）の生徒が 36.9%であり、昨年度(16.2%)と比べると増加している。家庭学習(自主学習)の習慣をつけさせるためにも、学習することの意義を考えさせるとともに、小中連携、家庭との連携による取り組みを強化していくことが必要である。

今後の学校運営の方向性について

別紙

○学習指導要領に基づいた教育活動をさらにすすめ、校内研究を中心に「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を推進する。
・全面実施から２年が経つが、授業において、学習目標(ねらい)に対する自己評価や振り返りに重点を置き、生徒自らが学習状況を認知できるよう取り組んでいく。
・生徒の発言力や表現力、文章力、粘り強く学習に取り組む態度等の育成に力を入れる。
・評価方法について常に見つめ直し適切な評価を実現していく。
・評価を通して、生徒の学習方法(習慣)の改善や、教員の教科指導の改善を図る

○１人１台端末の積極的な活用をはじめとして、ＩＣＴを活用した「個別最適化した学び」に向けた授業改善を進めていく。
・各種研修会等及びを通し、日々の授業で実践を通して職員のＩＣＴ活用能力及び活用指導力の向上を図る。
・「ｅライブラリ」の積極的な活用と授業の中での１人１台端末の有効な活用法について研究を深めていく。また、オンライン授業も効果的に活用していく。

○生徒指導と心の教育の充実を図る。
・全ての生徒の居場所づくりに向け、道徳教育・人権教育・キャリア教育等、学校の教育活動全体を通して教科等横断的に実践する。
・学級経営を中心に、「集団への指導」と「個に応じた指導」の双方により生徒の発達を支援する。
・個、集団への指導として、「ガイダンス」「カウンセリング」「教育相談」等を効果的に活用する。

○自立を育む特別支援教育の体制づくりを一層充実させる。
・教職員間の情報交換を密にし、小規模校の特性を生かした指導を行う。
・例えば、「校内委員会」「ケース会議」等を臨機応変に行うことにより、個別の支援計画・指導計画の共有と、合理的配慮の内容見直し等を継続的に行う。その上で、個々の生徒の教育的なニーズを可能な限り把握し、個に応じたきめ細かな指導を推進する。

○家庭・地域社会・学区内小学校との連携を一層強化する。
・家庭学習が習慣化していない生徒に対して、家庭学習について保護者と連絡確認をしていく。(協力を求めていく)
・課題の提示方法やＩＣＴ機器の活用を工夫しつつ、自主学習の習慣化に努めていく。
・「学校だより」や「ホームページ」で情報を公開し、連携・協力を深めていく。
・小学校との連携については、３校で確認された事項をもとに、授業規律や生徒指導上の確認事項などを意識して取り組むとともに、情報交換をさらに密にしていく。

学校関係者評価

期　　日　令和５年２月２７日（月）１６：３０～１８：００
会　　場　笛南中学校　美術室
学校関係者　笛南中学校学校運営協議会設置推進委員　１０名

中道地区自治会連合会長　　中込　敏夫
上九一色地区自治会連合会長　志村　光
中道地区自治会連合副会長　　薬袋　正
中道地区自治会連合副会長　　前田　学
学識経験者　　元浅川中学校校長　　古屋　一彦
前学校評議員　元市川小学校校長　　志村　文夫
前学校評議員　元御坂中養護教諭　　青木富貴子
令和３年度ＰＴＡ会長　　宮谷　光彦
令和４年度ＰＴＡ会長　　木之瀬光正
令和４年度ＰＴＡ副会長　中村　陽子

【　総　　論　】

学校長のリーダシップのもと，全職員が学校経営方針に基づいた学校運営がなされている。特に，特別な支援が必要な生徒に対するきめ細かな学習指導に対する働きかけがとても充実している様子が覗える。

一方で，「表現力・積極性の評価が低い」，「内に秘めて感情を出さない子どもたちが増えている傾向」が見受けられる。新型コロナウイルス感染症への対応状況が変わっていくので，行事や活動等をあらためて見直しつつ，生徒の「表現の場・自分を出せる場面の設定」について考えていって欲しい。

生徒数の減少が心配である。他地域からの入学について学校だけでなく地域と連携して少しでも改善の方向付けが必要である。

【学校運営の状況】

○「来年度の１年生は１クラスと聞いているが、他地域からの流入状況はどうか。」「児童生徒の減少率は他地域と比べるとどのような状況だろうか。」「特別支援教育に関わるきめ細かい生徒への学習指導（ほぼマンツーマン）に関わる教職員の負担は？」等の質問をいただいた。

◎あわせて、クラス数の減少に伴う教員の減少、教職員の負担について心配である。また、環境的にも財政的にも市への要望をお願いしつつ、プライオリティを考え、維持しつ学校運営をお願いしたい。

◎生徒の減少により，学校の運営に様々な支障があると思うが、小規模校の利点を生かし多きめ細やかな指導が為されていることに安心した。職員の同一歩調での指導が重要となるため，引き続ききめ細かで丁寧な指導を続けていただきたい。

◎５月以降、新型コロナウイルス感染症が５類になることで、学校生活が今まで通りの状況に戻っていくことになると思う。これまでの実践を生かしつつ、子どもたちの育成のために笛南中学校の良さを最大限に生かしていってもらいたい。

【教職員の指導・管理の状況】

○ＩＣＴ（タブレット）の活用（ｅライブラリーの利用状況、家庭学習等）に対する質問をいただいた。

○本校学区が抱えている古関地区の Wifi 環境についてのご示唆をいただいた。

◎学校長が示す学校教育目標及び授業づくりの方針に従って、教職員が日々努力している様子が見受けられるので、今後も組織的な働きかけ継続していただきたい。

◎端末活用が本格化した現在，運用上の課題や苦労があると思う。社会の変化や必要性により，今後も課題を克服しつつ着実に進めてもらいたい。「古関地区の WiFi 環境」の問題について、衛星通信の利用も考えられる。アンテナ設置料金、通信利用料金が光通信より多少かかってしまう状況にはあるが・・・。

◎「表現力」や「積極性」については、コロナ禍の影響が大きいと思う。ただ、感染レベル１になることによって制限がさらに緩和されるので、その中での工夫をさらにお願いしたい。

【家庭・地域との連携協力の状況】

◎子どもクラブ（育成会）の活動が過去３年間実施できなかった。ただでさえ中学生の参加が少ない状況にある上に、活動できなかった３年間の影響で子どもクラブの活動の経験が無い児童生徒が増えてきている。中学生の参加を促すためにも、学校行事や部活動（大会も含め）と地域の行事との日程調整を考えていく必要があると思う。

◎他地域（調整地域）からの入学生がいないとのことだが、笛南中の教育環境を維持していくためにも、新規入学生を１人でも増やす取り組みを地域との連携を図りながら進めていったらどうだろうか。

◎少子化に伴い、地域内の出生率の低下や若い世代の他地域への流出が深刻である。魅力ある地域づくりが望まれていると思う。地域（自治会連合）の支援が重要であると思う。

学校評価の自己評価において，根拠とした取り組み等の記述まとめ

学校長が示した学校経営方針に基づいて学校運営がなされているか （下記指導重点を総括して評価する）	・生徒が安心して学校生活を送れるよう、個別に話を聞きながら日々の教育活動をおこなっている。 ・学校通信を始めとして家庭へ発信している、また、学年学級においては、折に触れて話をしている。 ・学校長のリーダーシップの下、各職員がその職責を果たし、学校が機能的に運営されている。 ・「知性あふれ」では、子どもの知的好奇心が動くような発問を考えるように努め、「心豊かな」では道徳での友達と意見共有の場を大事にして視野を広げることを意識している。「たくましい」は、子どもが自ら考えて行動できるように、ヒントとなる言葉をかけ、自主性を重んじるよう努めている。 ・学習のふり返りでは、記録を取ることで、内容の確認をさせている。 ・学力向上をはじめとした各種取り組みにおいて、生徒一人ひとりに目を向けた指導が行われている。特に、粘り強く継続的な働きかけの結果、生徒の変容が見られている。 ・係活動や給食当番に対してＰＤＣＡサイクルを活用してよりよい活動を目指した。 教科書載っていない学習内容にそった実験や模型を使用して授業を進めた。友達アンケートにおける、いじめの早期発見と聞き取り調査 ・自立して活動できる生徒の育成。他者を思いやる学級づくり。ルールや規律を遵守する気持ち作り。
自主学習ノート等による学習習慣の確立と目標設定と見通し・ふりかえりの場面を設定した授業改善に取り組んでいるか。	・毎時間学習の目当てを示し振り返りを評価している。授業でＤマークコンテンツを活用している。 ・演習問題にｅライブラリを活用している。 ・課題の提出をクラスルーム内で行い、業務改善に役立てている。・ ・学習の振り返りを行えるように、題材毎の悪臭シートを作成している。 ・ICT の活用　・目標設定とその振り返り ・クロームブック等を利用し授業に役立てている ・取り組んだものは、「英語科デジタル教科書」「ICT による振り返りシート 」「Kahoot」などのアプリケーション ・目標設定や見通しが不十分だった ・授業の中でのクロームブックを調べ学習や提出物作成などに利用している。 ・単元ごと、時間ごとの目標の設定と生徒との共有 ・単元ごとの目標活動の設定と活動後の振り返り（次の学びにつながる振り返りをする指導） ・表現活動や生徒同士の相互評価のための ICT の活用 ・「単元をつらぬく問い」を意識させた学習を進めるため、単元の目標 ・ねらいと授業の目標・ねらいを提示した授業を実践している。 ・毎朝の自学チェック ・授業プリントごとの目標設定とそのプリントで学んだ内容を使って解く振り返り問題 ・総合的学習の時間における、ＩＣＴを活用した職業調べ、高校調べ。 ・学習カードを使用した振り返り ・クロームブックを使用した授業の展開

適切な生徒理解と居場所づくりを進め，「思い遣る心」をもった道徳的実践力を身につけさせるとともに，学校生活の中で発揮させる場面を設定しているか。	・生徒に対して個別最適な居場所を考えながら指導している。　・授業内で、全員が自己表現をする機会を意識的につくっている。 ・生徒や保護者の願いをうかがいつつ、SC の助言をうけて管理職や養護教諭と相談して取り組んでいる。 ・発問で実際に行っていきたいものとして提示している。 ・普段の学校生活の中で、見通しと振り返りを行い、改善点を指摘し、集団生活を向上させるための取り組みを行っている。 ・それぞれの立場や個性を尊重しあい、「思いやり」や「協力する心」が育つように授業等で取り組んでいる。 ・ほぼ全員がすべての学年の生徒に関わっていることから、教員同士の情報交換をきちんと行うことで、一人一人の生徒を様々な側面から見て理解しようとしている。 ・道徳の授業に積極的に取り組んでおり、工夫した授業を組み立てていると感じられる。 ・道徳の時間に使うワークシートに、自分の経験や、これから先のことについて、考えさせる設問を入れている。 ・道徳の授業で実施およびクラスや部活動での指導
安心・安全に関する知識を習得させ，自助・共助できる能力と態度を育成する場面設定をしているか	・日頃より防災に関わる話やお便りを通じて生徒に支援をしている。また、SDGs の学習(総合的な学習の時間）を通じて、防災の視点で地域とのコミュニティについて考える機会を設け学習している。 ・交通安全、ネットの取り扱い等安全についての情報発信を行っている。 ・教室に避難経路図を配置している。 理科の授業で、防災に関わる知識を取り入れている。 ・避難訓練や防災教育などでの指導
個別の支援計画、指導計画を作成し、計画的に社会的な自立にむけた支援の場面を設定しているか	・個別の支援計画に関わる事項について保護者と学期の面談において確認し、配慮すべき点や支援の方法を保護者と一緒に行っている。 ・画一的ではなく、生徒の個性に応じた計画がなされている。 ・総合的な学習や授業・部活動等を通して社会的な自立に向けた活動に取り組む事ができるようにしている。 ・ICT 等の活用を通して、個別の習熟度に合わせた学習に取り組む場面を設定している。 ・特別支援学級を中心に、通常学級の在籍する生徒への対応も全職員で進めていると思う。特に、日々の情報交換が効果的であると感じる。
家庭や地域との連携，小中連携を進め，開かれた学校づくりを推進しているか	・児生連の活動の中で情報交換を行うなど、小中連携の取り組みを行ってきた。 ・家庭との日々の連絡（主に電話や迎えに来た保護者と情報共有）などに力を入れている。 ・家庭の意見を聞く。地域との行事などへの積極的に参加することをすすめる。 ・小学校への出前授業 ・学校だより、学年・学級通信等の各種お便りやホームページを活用した情報発信を随時行っている。特に学校だよりは、地域の自治会回覧も行っている。 ・コロナ禍の影響で、小中連携については制約がかかってしまっているが、その中でも出来る範囲で取り組んでいると思う。 ・定期的に学級通信を発行し、生徒や学校の様子を伝えている。 三者懇談での家庭の様子や、学校に対する希望を聞いている。 ・学級通信の定期的な発行および保護者への連絡相談

改善すべき内容や意見

学校長が示した学校経営方針に基づいて学校運営がなされているか	・授業の内容と時間のバランスを取るのが難しくなってきている。
自主学習ノート等による学習習慣の確立と目標設定と見通し・ふりかえりの場面を設定した授業改善に取り組んでいるか。	・授業内でＩＣＴを活用するために、授業外でタイピングなどある程度の技術を身につけさせる必要があると思う。 ・振り返りの共有を、校内研を通して行っていきたい。 ・疑問点を積極的に調べる等の「くせ」を生徒に身につけさせていきたい。 ・全ての教科担任が意識を高めることが大切。また時間講師の先生方にも共有していく必要がある。 ・ICT 機器の活用について、負担にならず、どのような活用法が効果的か検討していくこと。 ・新型コロナウイルス感染症によるオンライン対応をすると、教員のクロームブックが足りず、授業内でＩＣＴ活用がしづらくなる。
適切な生徒理解と居場所づくりを進め，「思い遣る心」をもった道徳的実践力を身につけさせるとともに，学校生活の中で発揮させる場面を設定しているか。	・生徒会による「やさしさの木」の取り組みは、友達の思い遣りある言動に気づくきっかけとなり有意義だったと思う。 ・「自己中心的」な気持ちや態度でいる生徒がいるので、少しずつでも気持ちが育つように気をつけていきたい。 ・生徒の行動を見取る中で顕著な場面を共有する場（教員同士や生徒同士で）を作る。 ・学校生活の中で道徳的実践力を発揮させる場面をつくるのが難しい
安心・安全に関する知識を習得させ，自助・共助できる能力と態度を育成する場面設定をしているか	・日常生活の中で、生徒が危機管理をすべき機会をつくることができると良いと思う。 ・非常事態をきちんと想定した避難訓練が良かった。 ・今後もっと生徒の意識を高めていく必要がある。
個別の支援計画、指導計画を作成し、計画的に社会的な自立にむけた支援の場面を設定しているか	・不登校の生徒に対しての支援ができていない部分がある。 ・小規模校なので、大規模校に比べるとできることが限られている。
家庭や地域との連携，小中連携を進め，開かれた学校づくりを推進しているか	・コロナ禍ということもあり、難しい面があった。 ・今後ＪＲＣの活動を通して、より小中連携を深めていく必要がある。 ・ホームページや学級通信、学年通信などを通して、学校の様子を発信していますが、保護者等に届かないことがあります。その点は改善していく必要があると思います。
今日的な教育課題への対応を具体的に進めているか	・各教科の振り返りシートを玄関に掲示するなど、全校体制で、主体的な学びにつながるための取り組みを進めることができたと思う。 ・ICT の活用が授業にとって有効であり、効果的となっているかどうかの検証が必要となる ・４月以降のＰＣ持ち帰りについて対応する。 ・目の前のことをこなすので精一杯になってしまいなかなか思うように取り組むことができていません。 ・クロームブックを用いた授業が増えてきていてＩＣＴの活用が進んでいると感じます。ＩＣＴの活用が進むと普段の授業ではなかなか意見を言えない生徒の意見や考えを確認できるので、学習の評価をしやすくなると考えます。自分の授業ではまだまだ活用できていないと感じるので、ジャムボードなどの活用方法などを学び、ＩＣＴをさらに活用した授業を展開していきたいと思います

令和4年度　学校評価　自己評価の数値集計表　年間比較

		R3集計		0	1	2	3	4	R4集計		0	1	2	3	4	増減						
		平均値	平均値のA－B	わからない	取り組んでいない	やや取組が不足している	ある程度取り組んでいる	取り組んでいる	平均値	平均値のA－B	わからない	取り組んでいない	やや取組が不足している	ある程度取り組んでいる	取り組んでいる	平均値	平均値のA－B	わからない	取り組んでいない	やや取組が不足している	ある程度取り組んでいる	取り組んでいる
A　学校として取り組んでいるか	学校長が示した学校経営方針に基づいて学校運営がなされているか (下記指導重点を総括して評価する)	3.6	0.4	0	0	0	3	4	3.7	0.3				3	8	0.1	−0.1	0	0	0	0	4
	自主学習ノート等による学習習慣の確立と目標設定と見通し・ふりかえりの場面を設定した授業改善に取り組んでいるか。	3.6	0.4	0	0	1	1	5	3.5	0.2				6	5	−0.1	−0.2	0	0	−1	5	0
	適切な生徒理解と居場所づくりを進め，「思い遣る心」をもった道徳的実践力を身につけさせるとともに，学校生活の中で発揮させる場面を設定しているか。	3.3	0.1	0	0	0	5	2	3.3	0.3				8	3	0.0	0.2	0	0	0	3	1
	安心・安全に関する知識を習得させ，自助・共助できる能力と態度を育成する場面設定をしているか	3.1	0.0	0	0	0	6	1	3.3	0.4	2		1	4	4	0.2	0.4	2	0	1	−2	3
	個別の支援計画、指導計画を作成し、計画的に社会的な自立にむけた支援の場面を設定しているか	3.5	0.5	0	0	0	1	6	3.3	0.6			1	6	4	−0.2	0.1	0	0	1	5	−2
	家庭や地域との連携，小中連携を進め，開かれた学校づくりを推進しているか	3.7	0.7	1	0	1	2	3	3.3	0.6			2	4	5	−0.4	−0.1	−1	0	1	2	2
B　あなたは取り組んでいるか	学校長が示した学校経営方針に基づいて学校運営がなされているか (下記指導重点を総括して評価する)	3.1	0.4	0	0	0	6	1	3.4	0.3			1	5	5	0.3		0	0	1	−1	4
	自主学習ノート等による学習習慣の確立と目標設定と見通し・ふりかえりの場面を設定した授業改善に取り組んでいるか。	3.1	0.4	0	0	0	6	1	3.3	0.2			1	6	4	0.2		0	0	1	0	3
	適切な生徒理解と居場所づくりを進め，「思い遣る心」をもった道徳的実践力を身につけさせるとともに，学校生活の中で発揮させる場面を設定しているか。	3.1	0.1	0	0	0	6	1	3.0	0.3	1		1	8	1	−0.1		1	0	1	2	0
	安心・安全に関する知識を習得させ，自助・共助できる能力と態度を育成する場面設定をしているか	3.1	0.0	0	0	0	6	1	2.9	0.4	2		4	2	3	−0.2		2	0	4	−4	2
	個別の支援計画、指導計画を作成し、計画的に社会的な自立にむけた支援の場面を設定しているか	3.0	0.5	0	0	2	3	2	2.7	0.6	1		5	3	2	−0.3		1	0	3	0	0
	家庭や地域との連携，小中連携を進め，開かれた学校づくりを推進しているか	3.0	0.7	0	0	2	3	2	2.7	0.6	1	1	2	6	1	−0.3		1	1	0	3	−1

	令和3年						令和4年						増減					
3.5	回答数A	1	0	2	18	21	3.4	回答数A	2	0	4	31	29	−0.1	回答数A	1	0	2	13	8
3.1	回答数B	0	0	4	30	8	3.0	回答数B	5	1	14	30	16	−0.1	回答数B	5	1	10	0	8

生徒・保護者のアンケートの分析

１　生徒のアンケートから

①授業と学習について（全１０項目）
＜肯定的な回答が８０％以上の項目＞
・授業前に勉強用具を準備していると思う。
・授業ノートに書いていることは・・・。
・クロームブックの活用法を理解し、学習の時に有効に活用している。
＜肯定的な回答が６０％以下の項目＞
・私は、積極的に手を上げたり意見を言ったりしていると思う。
・私は、授業の終わりに自分が目標を達成できたか確認していると思う。
＜数値には表れないが心配な項目＞・・・昨年度から減少してしまった
・授業で学んだことは社会に出てから役に立つと思う。
＜考察＞
昨年度と比べると、授業に対する肯定的な回答数は３項目と変化はないが、今年度新たに加えた「クロームブックの活用」については肯定的な回答としてあげられた。消極的な回答は２項目で変わらなかった。「授業の初めに目標がわかっている生徒」が７０％とわずかに減少してしまった。その影響からか、「授業の終わりに自分が目標を達成できたか確認している」生徒の割合が昨年度同様に５割程度にとどまっている状況。学習目標への意識付けを更に意識した授業作りとともに、日々の働きかけが求められると考える。
ここ数年の課題である「発言力や表現力関わる能力育成」については今年度も大きな変化（向上）はみられなかった。コロナ禍・マスク着用等の影響もあると思うが、授業改善における継続した指導が求められる（指導重点に位置づけたい）。あわせて、今年度向上がみられた「自分の考えをまとめること」、変容があまりみられない「粘り強く学習に取り組むこと」「作文を書くこと」についても、学習指導及び授業改善における課題として考えていきたい。

②家庭学習について（全４項目）
＜肯定的な回答が８０％以上の項目＞
・本年度無し
＜肯定的な回答が６０％以下の項目＞
・自主学習ノートなど、塾以外に自分から家庭学習をしていると思う雄。
＜数値には表れないが心配な項目＞
・家庭学習を、１日平均１時間以下またはしていないと回答した生徒の割合＝３７％。
＜考察＞
「家庭で必ず宿題をしている」が５９％と昨年度と比べて下がってしまった。家庭学習が定着している生徒とそうで無い生徒の差が広がっている状況とも言える。特に、家庭学習を１日平均１時間以下またはしていないと回答した生徒の割合は、令和３年度までは徐々に減少傾向にあったが、今年度については、３６．９％と大幅に増えてしまった。自主学習ノートへの取り組み、クロームブックの持ち帰り等を通して、家庭学習の習慣化に取り組んでいく必要がある。
本校では、学区内に笛南中学校区地域課題研究会（笛南中・中道北小・中道南小）を設置し、情報交換や同一の取組・研修等を実施し、９年間の義務教育を見通す中で児童生徒の育成を図っている。家庭学習の定着についても、数年前より「自学ノートの実践」を小中合同で進め一定の成果を上げてきた経緯があるが、ここに来て「１日の家庭学習時間が１時間以下・していない」生徒が大幅に増えている状況から、学習に意義や、将来へのビジョン等をすべての生徒に考えさせ、自分の進路設計とあわせた学習習慣を身につけさせる必要がある。授業改善と連動させながら、全ての生徒が家庭学習を定着させられるよう、家庭との連携を密にしながら指導の工夫・改善を図っていきたい。

③学校生活について（全６項目）

＜肯定的な回答が８０％以上の項目＞

・６項目中５項目。（「学校に行くのが楽しい」が７５％）

＜肯定的な回答が６０％以下の項目＞

・昨年度０→本年度０

＜考察＞

ほぼ全ての項目において肯定的な回答が８０％を越えていることから、学校生活への満足度は高く、ほとんどの生徒が充実した学校生活を送っている様子が覗える。

とはいえ、学校に行くことを楽しいと感じていない生徒が２割程度いることや、教員との良好な関係を構築できていない生徒が１割程度存在する状況は大きな課題である。今後、今まで以上に注意深く子どもの様子（変容）を見守るとともに、学級経営を中心とした集団づくりに力を入れていく必要があると思われる。また、個に応じたきめ細やかな指導を継続して行っていくことが重要であると考える。

④家庭生活について（全５項目）

＜肯定的な回答が８０％以上の項目＞

・家族とたくさん話をする機会がある。

＜肯定的な回答が６０％以下の項目＞

・昨年度０→本年度０

＜数値には表れないが心配な項目＞

・毎朝自分で起きている。７４％

・両親には、ほめられることが多い。６６％

＜考察＞

家族との会話の機会が多く、良好な家族関係が築けており、家庭生活が安定している様子がうかがえる。

ただ、「明日の学習の準備をしていない」「朝自分で起きられない」「手伝いや仕事をしていない」「両親にほめられることが少ないと思う」という生徒が２５％程度みられている状況にある。家族と話しはするが、家庭における「自主的な動き(活動)」「家族の一員である意識」という面で課題を感じる。「自己肯定感」を育成していくとともに、集団の一員としての存在意義や責任感等に関する心育てていく必要がある。

＜総括＞

全２５のアンケート項目の内、８項目において８０％以上の肯定的な回答を得られた。過去２年の状況と比較すると、「１２項目」→「９項目」→「８項目」と、年々項目数を減らしてしまっている。一方で、肯定的な回答が６０％を下回る項目については増加していないという状況にはある。ただ、このような微妙は変化(減少)については、今後、本校にとって大きな課題として力を入れて指導していく必要があると思われる。

長引くこと中の影響を受け、子どもたちがのびのびと、楽しく、自分の力を伸ばしていけるような活動がことごとく制限され、「自分を出す」「表現する」場面が激減してしまった。７割以上の生徒はコロナ禍以前と変わらないかのような状況を見せているが、３割程度の生徒には、今の生活(家庭、学校、集団・・・)への満足感や所属意識、自分の存在意義等がみつけられない状況にあると感じられる。そのような状況にある生徒に対し、将来に対する目標や自己肯定感・自己充実感を持たせるためのきめ細やかな指導、働きかけを工夫していく必要があると考える。

アンケート結果では、学校生活に関する項目は肯定的な意見がほとんどであり、充実した学校生活を送っている生徒が多い状況が覗える。その一方、細かい点をみると「学習の振り返り」「発言力」「粘り強さの育成」などについては、現状に満足せず、育成すべき生徒の資質・能力に関する授業づくりに力を入れ、一歩も二歩も進んだ働きかけが必要である。

教師としての指導力の向上を目指すとともに、生徒一人一人の実態に合わせたアプローチを検討・模索しつつ、日々の教育活動において実践し、今後の学校運営に生かしていくことが重要である。

３　保護者のアンケートから

① 学校を訪問した、または参加・協力した行事等について（全１０項目）

＜肯定的な回答が８０％以上の項目＞昨年度７項目→本年度７項目

・わたしは、学校行事に積極的に参加していると思う。
・わたしは、子どもの生活リズムに気をつけ規則正しい生活をさせていると思う。
・わたしは、中学生としてふさわしいマナーなどを指導していると思う。
・わたしは、何事も子どもが自分でやり遂げられるように支えてあげていると思う。
・わたしは、思春期の子どもの心に寄り添い励ましていると思う。
・わたしは、地域で生きる子どもとして積極的に地域行事に参加させていると思う。
・私の家庭では、子どもの将来のことについて話す機会がよくあると思う。

＜肯定的な回答が６０％以下の項目＞

・昨年度０項目→本年度も０項目

＜数値的には現れないが心配な項目＞

・子どものネット利用やスマホ利用についてルールがない。３０％程度
・机や周辺の整理整頓ができていない。２９％
・自主学習のと李組に協力していない。３０％程度

＜考察＞

アンケートの結果から各家庭で、中学生としてふさわしい生活の仕方や必要なルールやマナーにいて会話を交わし、親子のコミュニケーション並びに熱心な教育がなされていることが覗える。また、生徒の支えとなり寄り添い励ましている様子や地域との交流が図られていることが覗える。

一方で、ネットやスマホの利用状況、机や周辺の整理整頓、家庭学習に対する保護者の関わりという点に課題が見られる。家庭環境が学習成果を左右し、重要性も高いことについて、家庭との連携を図りつつ、同一歩調で改善していく必要がある。

②学校生活・家庭での姿について（全４項目）

＜肯定的な回答が８０％以上の項目＞

・わたしは、子どもが学校に行くことを楽しみにしていると思う。
・わたしは、子どもが集団生活に必要な決まりやマナーを守っていると思う。

＜肯定的な回答が６０％以下の項目＞

・昨年度０→本年度０

＜考察＞

多数の生徒が学校でのびのびと、生き生きと活動し、集団生活において大切な決まりやマナーを守りつつ、楽しく活動していることが覗える。一方で、楽しみを見いだせない生徒がいることも明らかである。また、学習に対する意識や意欲の面に課題がある。今後も、継続して個に応じたきめ細やかな指導を行うことが必要である。

③教職員の生徒および保護者との関係について（全５項目）

＜肯定的な回答が８０％以上の項目＞

・教職員が生徒への声かけを大切にし、生徒理解に努めていると思う。
・教職員が保護者とともに子供の成長のために協力してくれていると思う。
・教職員が保護者に各種便り等で生徒の様子を適切に伝えていると思う。

＜肯定的な回答が６０％以下の項目＞

・昨年度０→本年度０

＜考察＞

３項目において肯定的（８０％以上）な回答となった。昨年度は２項目に減ってしまっていたが、今年度は３項目に増え、別の１項目については、わずかではあるが８０％を下回る結果となっている。

「生徒への指導・支援」に関わる項目が、わずかではあるが８０％を下回ったことについては教職員として事実を真摯に受け止め、生徒にとって適切な指導や支援に努めつつ、生徒との好ましい関係を作ることに力を入れた教育活動をより意識していくことが重要である。

特に、「個々の生徒への対応」「学校生活の様子の情報提供」など、保護者と教職員がともに生徒の成長を支えていると保護者に実感してもらえるような働きかけを継続していく必要がある。

学力の定着を図る指導法の工夫については、今年度も、他の項目に比べると数値が低くなって

いる。全生徒の学習・学力の保障を実現するため、指導方法や指導体制を工夫し、個に応じた指導の充実をさらに図っていくことが求められる。あわせて、教員による丁寧な対応と説明責任を十分に果たすことで保護者の信頼を得られるよう心がけること、そのためにも教員の資質・能力の向上を進めることが重要であることを再認識することが重要である。

学校評価保護者アンケートに記述のあった内容

●＝改善が必要なご意見

「笛南中学校の教育について、ご意見ご感想等ありましたら自由に記述してください。」

○家庭的な温かい雰囲気が中学校にあります。この時代に非常に重宝される中学校だと思います。いつも娘のことを気にかけてくださり、ありがとうございます。

○多感な時期の子ども達に日々精一杯向き合い、熱心に、細やかにご指導いただき、感謝しております。PTA 役員の選出にあたり、保護者の声や小学校の規模を考慮し、皆の理解が得られるよう丁寧に話を進めていただき、とてもありがたかったです。

○きめ細かなご指導をありがとうございます。家庭での過ごし方がよくなくて申し訳なく思っています。今後ともご指導のほど、よろしくお願いいたします。

○中学 3 年生の親です。私の子供はのんびりタイプなので個性かもしれませんが、受験への意識が低く学習をしようという行動がなかなか起きませんでした。 そんな学生がもう遊んでいるだけでは行けないなと意識できるように、早期から学校だけの成績で評価するのではなく、甲府市内の同学年と比較した成績での評価を活用した生徒への学習の投げかけをしたほうが良いのではないかと思いました。

○授業中の態度の悪い生徒に対して、どのように対処していってくれるのか不安です。

○いつも子供のためにありがとうございます。 中学校に入学して、思ったより、先生方と保護者、生徒間の風通しが良いと思います。 今の所、特に不満等ありません。 のびのびと学校生活を送ることができれば良いなと思います。

○子供が楽しく学校に通えているようですので安心しています。先生やお友達には感謝しております。今後とも宜しくお願いいたします。

○いつも子どもたちをよく見ていただきありがとうございます。

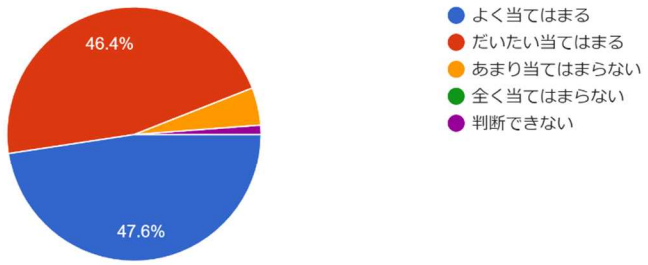
○様々な職業を学ぶ機会を増やしていただけたらと思います。社会の中でどのような職種が存在するのか、自分の進む道はどのようにすべきか等を考える時間が少なかったような気がします。

○思春期の時期の子供達ですが楽しい学校生活を送れている環境に感謝しています。

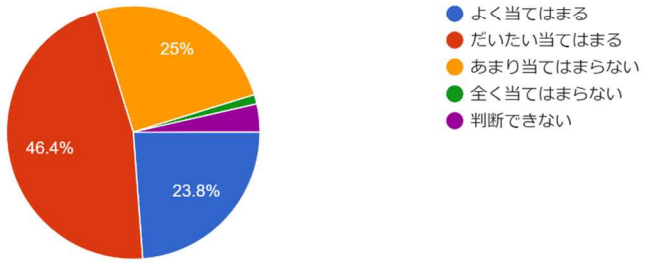
学校評価　生徒用アンケート

◆授業と学習についての質問です。

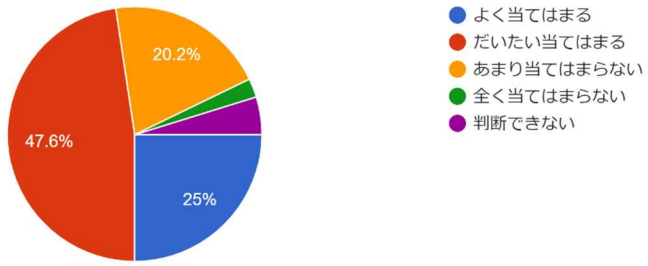
質問1　わたしは、授業前に学習用具を準備していると思う。



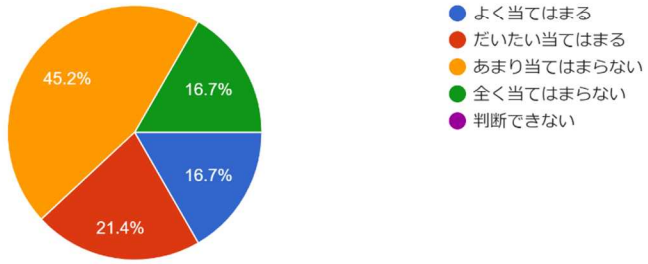
質問2　わたしは、授業の始めにこの時間に達成する目標がわかっている。



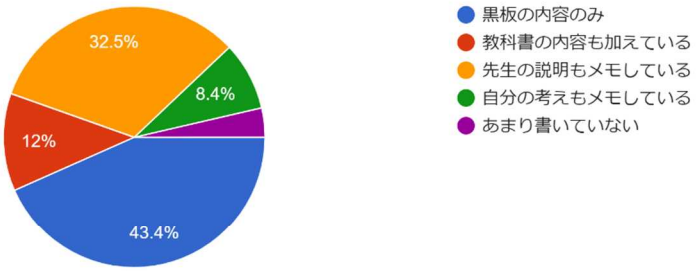
質問3　わたしは、授業で話し合いや自分の考えをまとめる活動が多いと思う。



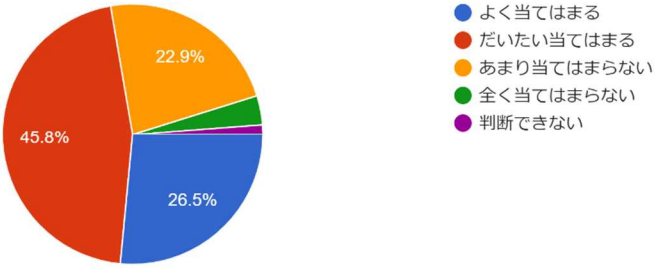
質問4　わたしは、積極的に手を上げたり意見を言ったりしていると思う。



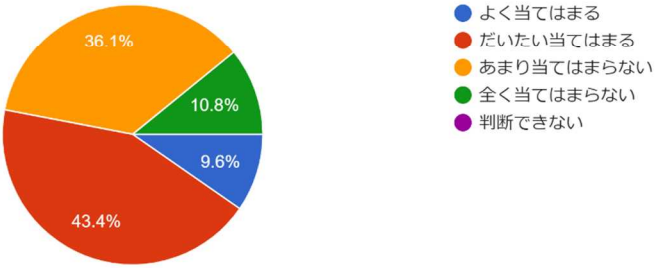
質問5　わたしは、授業ノートに書いていることは・・・。



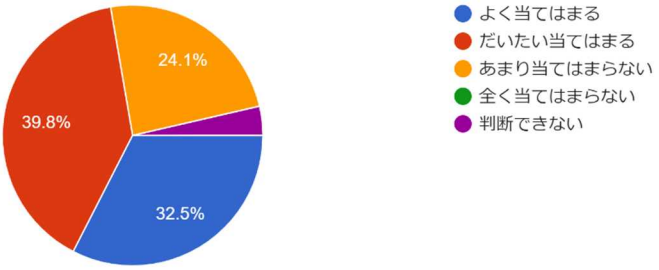
質問6　わたしは、難しいことでも諦めずに取り組んでいると思う。



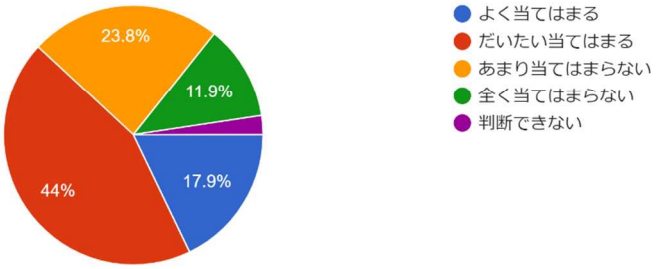
質問7　わたしは、授業の終わりに自分の目標を達成できたか確認していると思う。



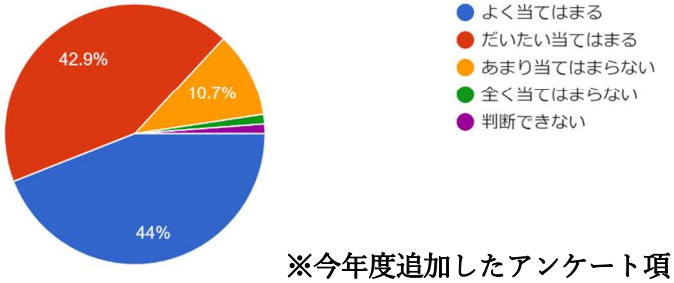
質問8　わたしは、授業で学んだことは社会に出てから役に立つと思う。



質問9　わたしは、４００字原稿用紙で２～３枚くらいの作文は書けると思う。



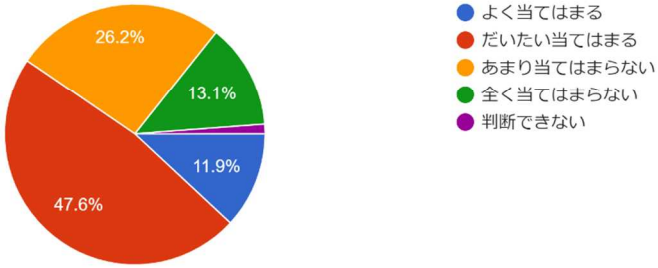
質問１０　わたしは、クロームブックの活用法を理解し、学習の時に有効に活用している。



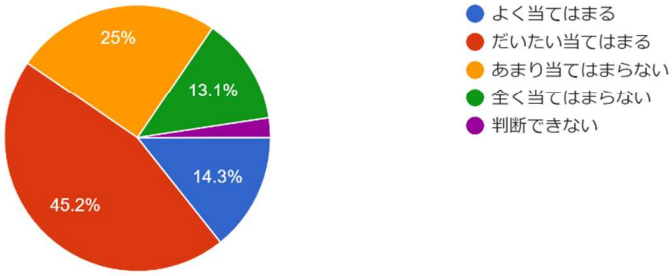
※今年度追加したアンケート項目です。

◆家庭学習についての質問です。

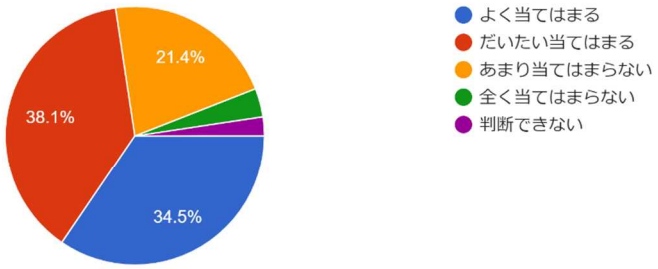
質問１１　わたしは、家庭で宿題を必ずしていると思う。



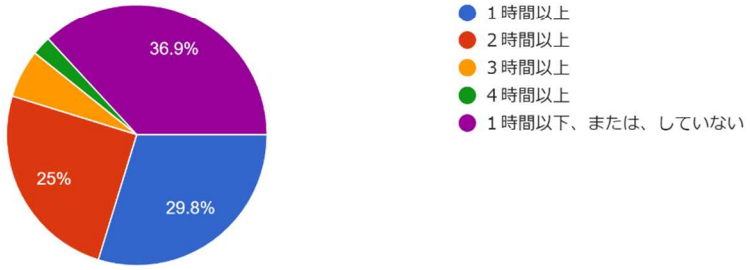
質問１２　わたしは、自主学習ノートなど、塾以外に自分から家庭学習をしていると思う。



質問１３　わたしは、定期テスト前の学習をきちんとしていると思う。

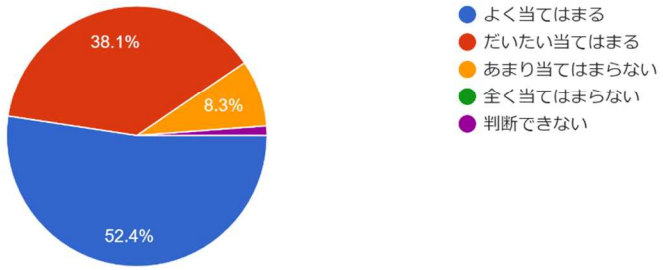


質問１４　わたしは、家庭学習を1日平均これだけやっていると思う。

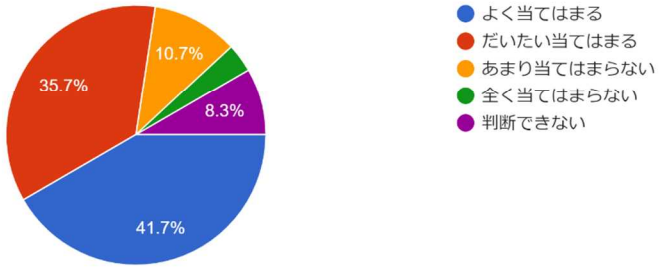


◆学校生活についての質問です。

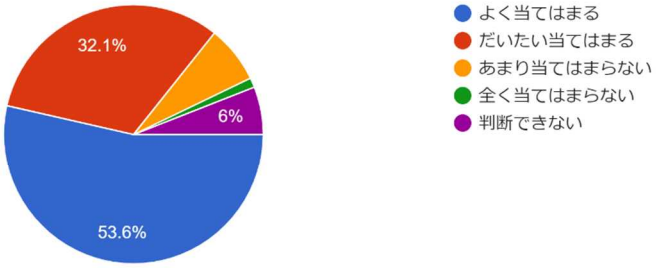
質問１５　わたしは、学級での係や清掃分担で良い仕事になるように取り組んでいると思う。



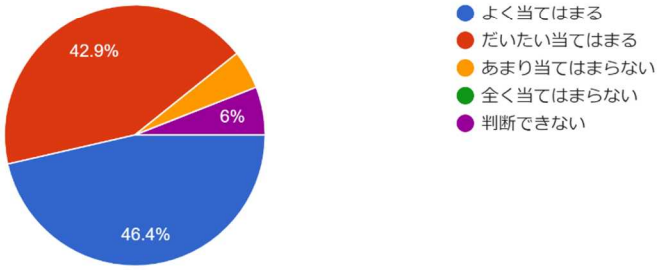
質問１６　わたしは、学級で悪口や嫌なことを言ったり言われたりすることがないと思う。



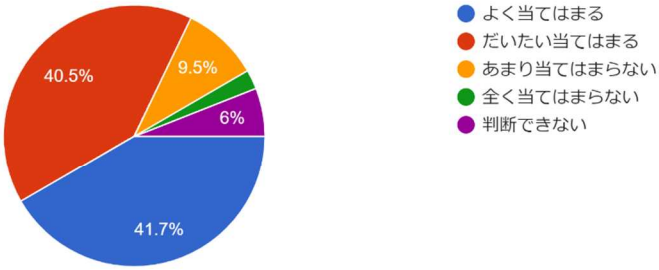
質問１７　わたしは、嘘をついたり自分だけが得するようなことはしないようにしていると思う。



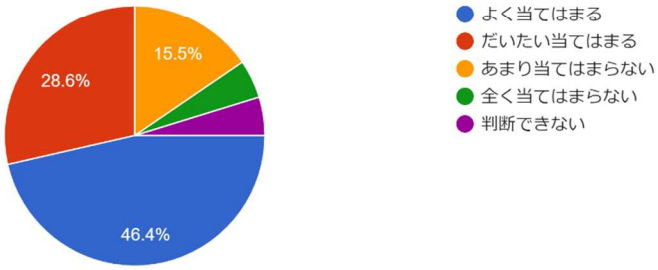
質問１８　わたしは、困っている人やできない人に協力したり助けたりしていると思う。



質問１９　わたしは、困ったことがあっても先生が助けてくれたり助言してくれたりすると思う。

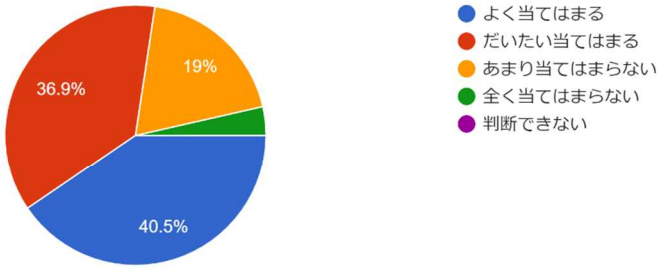


質問２０　わたしは、学校へ行くのが楽しいと思う。

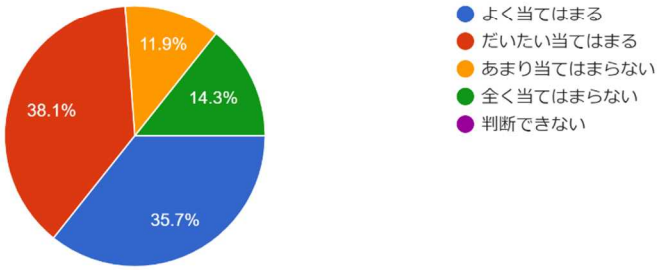


◆家庭生活についての質問です。

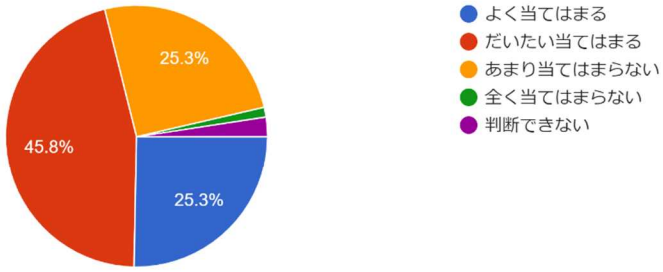
質問２１　わたしは、家庭でいつも明日の学習の準備をしていると思う。



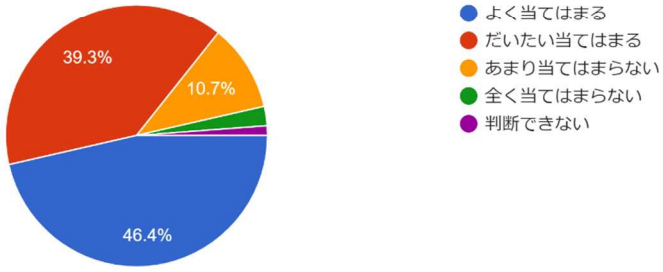
質問２２　わたしは、毎朝自分で起きていると思う。



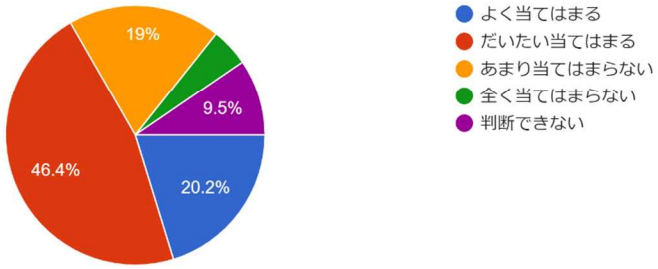
質問２３　わたしは、家族の一員として手伝いや仕事をしていると思う。



質問２４　わたしは、家族とたくさん話をする機会があると思う。



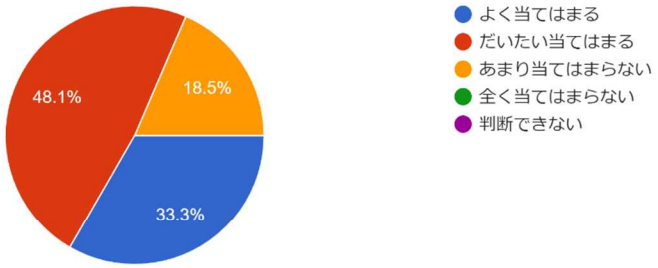
質問２５　わたしは、保護者に褒められることが多いと思う。



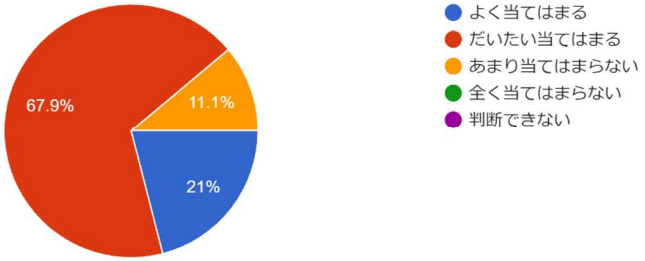
学校評価　保護者用アンケート

◆今年度、学校を訪問された、または参加･協力した行事等について回答してください。

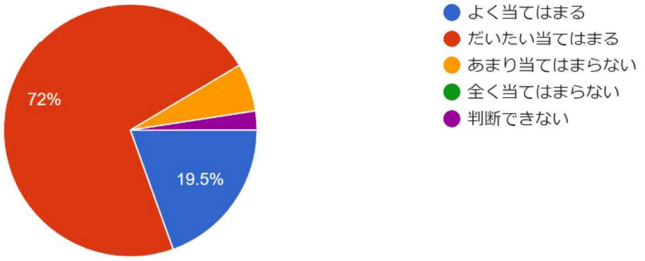
質問１　私は、授業参観等の学校行事に積極的に参加していると思う。



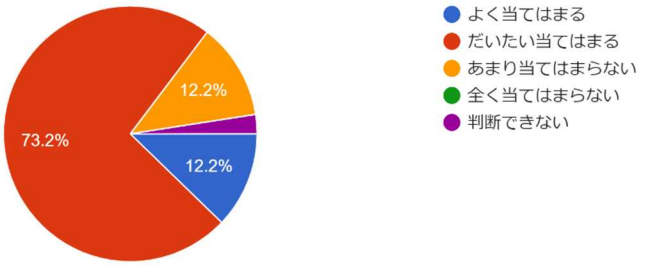
質問２　私は、子どもの生活リズムに気をつけ、規則正しい生活をさせていると思う。



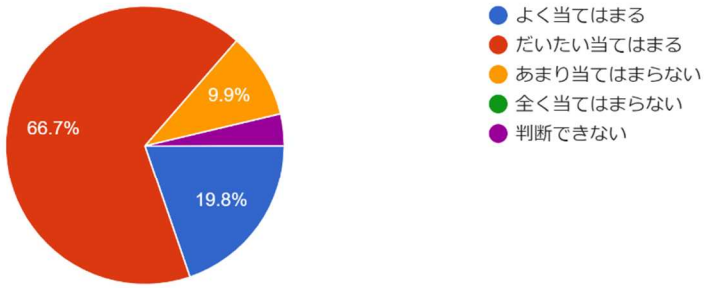
質問３　私は、子どもに「中学生としてふさわしいマナー」などを指導していると思う。



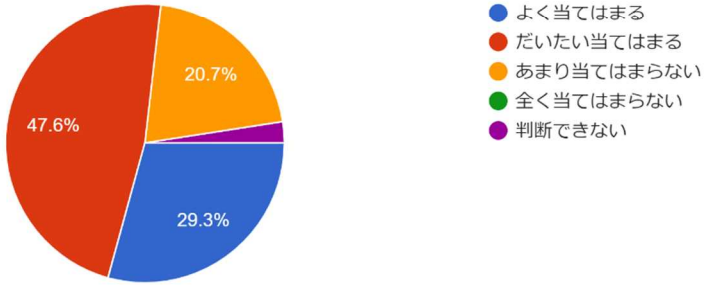
質問４　私は、子どもに対して何事も自分でやり遂げられるように支えてあげていると思う。



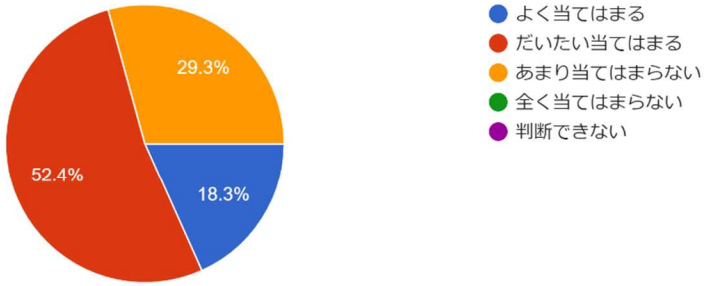
質問５　私は、思春期の子どもに寄り添い、励ましていると思う。



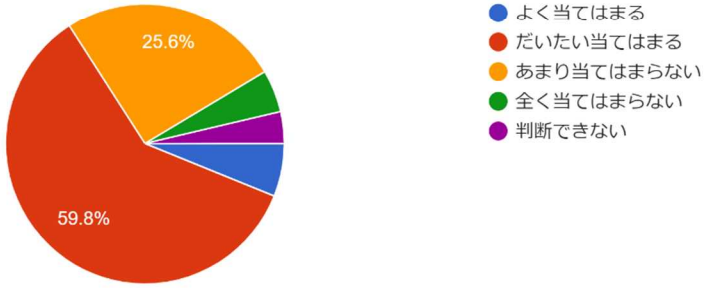
質問６　私は、地域で生きる子どもとして、積極的に地域行事へ参加させていると思う。



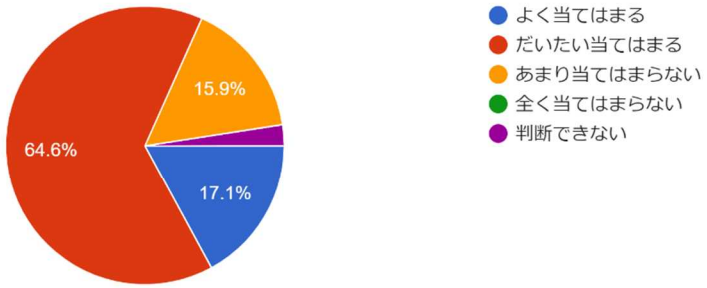
質問７　私は、子どもが学習に集中できるように、机や周辺の整理をさせていると思う。



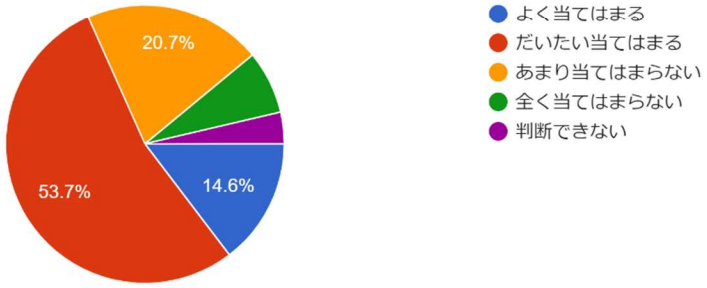
質問８　私は、学校の自主学習の取り組みについて協力して励ましていると思う。



質問９　私の家庭では、子どもと将来のことについて話す機会がよくあると思う。

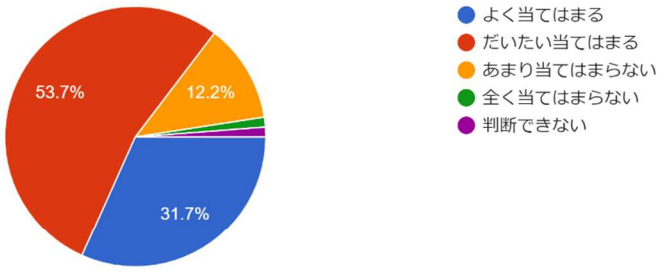


質問１０　私の家庭では、子どものネット利用やスマホ利用についてのルールがある。

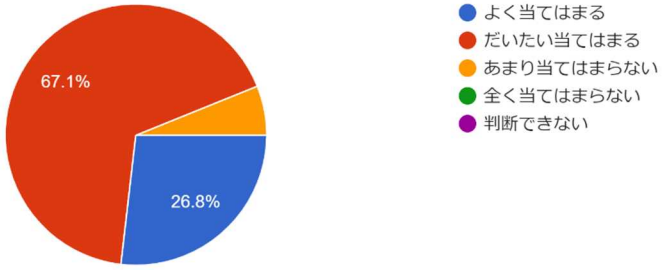


◆生徒の学校生活･家庭での姿を見てご回答ください。

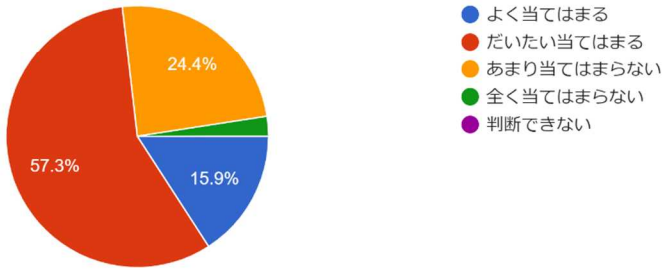
質問１１　私は、子どもが学校へ行くことを楽しみにしていると思う。



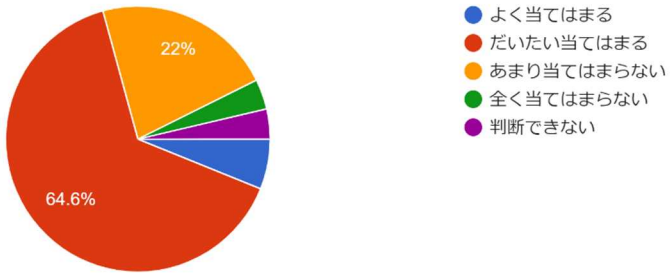
質問１２　私は、子どもが集団生活に必要な決まりやマナーを守っていると思う。



質問１３　私は、子どもが学習内容を理解しようと積極的に学んでいると思う。

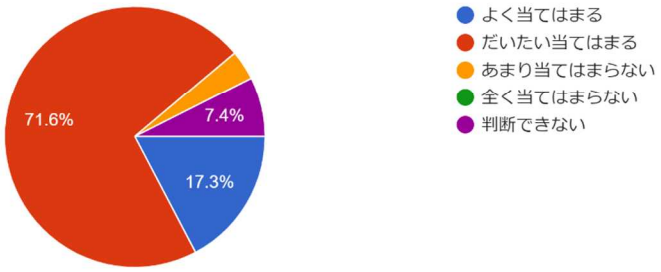


質問１４　私は、子どもが学校で学んだことが家庭生活の中でも見られるようになっていると思う。

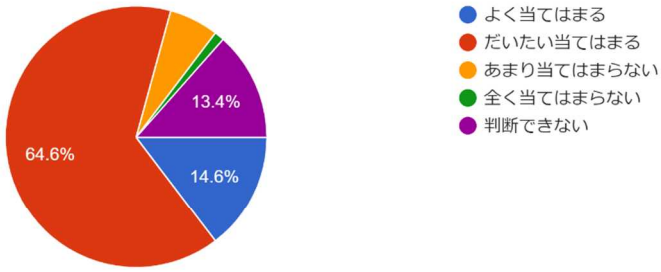


◆教職員の生徒および保護者との関係はいかがでしょうか。

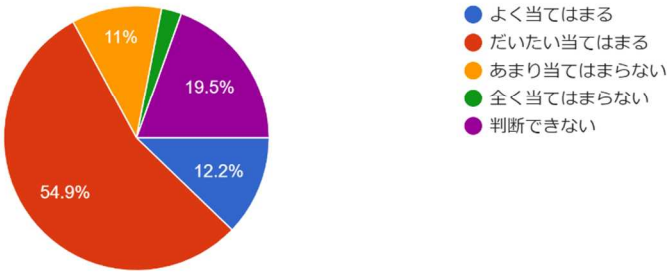
質問１５　私は、教職員が生徒への声かけを大切にし、生徒理解に努めていると思う。



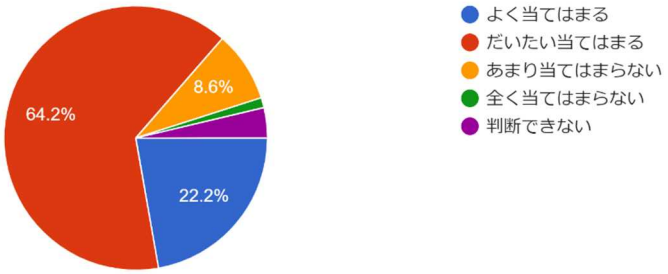
質問１６　私は、教職員が規範を示し、社会の一…につけるべき内容を適切に指導していると思う。



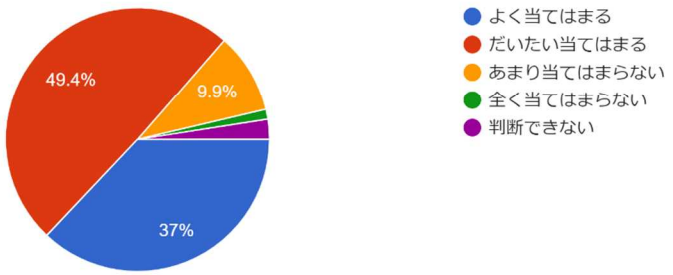
質問１７　私は、教職員が一人ひとりの生徒の理…定着を図るために指導の工夫をしていると思う。



質問１８　私は、教職員が保護者とともに子どもの成長のために協力してくれていると思う。



質問１９　私は、教職員が保護者に「お便り」等で生徒の様子を適切に伝えてくれていると思う。



質問２０　笛南中学校の教育について、ご意見ご感想等ありましたら自由に記述してください。

〇家庭的な温かい雰囲気が中学校にあります。この時代に非常に重宝される中学校だと思います。いつも娘のことを気にかけてくださり、ありがとうございます。

〇多感な時期の子ども達に日々精一杯向き合い、熱心に、細やかにご指導いただき、感謝しております。PTA 役員の選出にあたり、保護者の声や小学校の規模を考慮し、皆の理解が得られるよう丁寧に話を進めていただき、とてもありがたかったです。

〇きめ細かなご指導をありがとうございます。家庭での過ごし方がよくなくて申し訳なく思っています。今後ともご指導のほど、よろしくお願いいたします。

〇中学 3 年生の親です。私の子供はのんびりタイプなので個性かもしれませんが、受験への意識が低く学習をしようという行動がなかなか起きませんでした。 そんな学生がもう遊んでいるだけでは行けないなと意識できるように、早期から学校だけの成績で評価するのではなく、甲府市内の同学年と比較した成績での評価を活用した生徒への学習の投げかけをしたほうが良いのではないかと思いました。

〇授業中の態度の悪い生徒に対して、どのように対処していってくれるのか不安です。

〇いつも子供のためにありがとうございます。 中学校に入学して、思ったより、先生方と保護者、生徒間の風通しが良いと思います。 今の所、特に不満等ありません。 のびのびと学校生活を送ることができれば良いなと思います。

〇子供が楽しく学校に通えているようですので安心しています。先生やお友達には感謝しております。今後とも宜しくお願いいたします。

〇いつも子どもたちをよく見ていただきありがとうございます。

〇様々な職業を学ぶ機会を増やしていただけたらと思います。社会の中でどのような職種が存在するのか、自分の進む道はどのようにすべきか等を考える時間が少なかったような気がします。

〇思春期の時期の子供達ですが楽しい学校生活を送れている環境に感謝しています。